

(様式第7号)

令和元年度 年度評価表

1 指定管理施設の概要

施設名	舞鶴赤れんがパーク		
指定管理者	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（通称：海の京都DMO）		
設置目的	国の重要文化財であり、舞鶴の歴史的資産でもある赤れんが倉庫群を次世代へ伝えていくため保存・活用し、市民の憩いの場の創出と観光交流人口の増大による地域経済の活性化を図るため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
所管課	産業振興部観光まちづくり室観光振興課		

2 利用状況等の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
公式来場者数	397,167	620,129	691,189	742,901	682,921
施設利用者数(人)	542,759	927,925	1,128,686	1,207,946	1,146,306
利用料金(円)	7,487,703	7,233,145	7,338,843	6,745,250	7,350,870
指定管理料(円)	54,169,000	53,415,500	53,171,000	49,126,500	43,136,147

3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
来場者数	500,000人	770,000人	682,921人	89%
観光消費額	70,000千人	101,000千円	117,858千円	117%
稼働率	60.0%	60.0%	58.7%	98%

4 収支状況

収入		支出	
利用料金	7,350,870	人件費	30,211,457
指定管理料	43,136,147	維持管理費	13,349,398
事業収入	116,030,446	事業費	117,894,934
その他	12,012,978	その他	6,552,561
合計	178,530,441	合計	168,008,350
差額			10,522,091

5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	○	来場者数については新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により特に2月、3月の来場者への影響が大きかったが、観光消費額については目標を大きく上回っており、取り組みが評価できる。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	○	市と密接な連携を図り将来のビジョンに沿って、現在すべきことを着実に実施している。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	○	海の京都の観光拠点施設として果たすべき役割を果たしている。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	仮設店舗やキッチンカーの出店調整に努め、飲食における観光地としての満足度の向上に努力している点で、評価できる。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	◎	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、前年から公式来場者数は減少しているものの、観光消費額については目標を大きく上回っており高く評価できる。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	◎	利用者・来場者に対し、常に親切丁寧な対応に努める姿勢は評価でき、リピーターも多いため利用者の満足度は高いと考える。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	定期的にモニタリングを行い、利用者の意見把握に努めている点で評価できる。

利用者の要望・苦情への対応は十分に 行われたか	○	迅速に苦情対応を行うなど評価できる。
(3) 管理運営の効率性		
経費の節減が図られたか	○	施設利用の増加に伴い、管理運営経費が増加しているが、節電や、外注などにより経費の節減に努めている。
委託費、物品の購入費等の経費が最 小となるような取組が行われたか	○	様々なケースで複数見積もりを行うなど経費の節減に努めている。
収入増加のための取組が行われたか	◎	自主事業として、収益事業を積極的に取り組み、結果として賑わいづくりと集客に貢献している。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	◎	非常に多くの来訪者への丁寧なサービス水準を維持するため、職員を増員配置した。
職員の能力向上のための取組が行わ れたか	○	観光案内機能を高めるためにも、職員研修を実施し、能力開発に努めている。
施設の平等な利用が行われたか	○	条例や規則の厳守に努めている。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	職員への管理を徹底している。
情報の公開が適切に行われたか	○	透明性のある運営を努めている。
収支状況や会計処理が適切か	○	専用システムを導入するなど適切に処理している。
施設・設備の法定点検及び保守が適 切に行われたか	○	適切に行われている。
備品等の管理が適切に行われたか	○	適切に行われている。
危機管理、安全対策などは十分か	○	職員連絡網やマニュアルを作るなど、万一の場合に備える体制づくりができている点は評価できる。
法令等を遵守し、適正な管理が行わ れたか	○	適切に行われている。
(5) その他コメント		
サービス向上		着実な施設利用者の増加に伴い、赤れんが施設（倉庫）だけの利用のみならず外構（屋外）も含めた一体的な利用申請など、施設利用の形態が非常に多様化している。このような中、利用者同士の干渉や、観光客の動線確保など、赤れんがパーク全体を俯瞰しながら、イベントコントロールを行っていることは高く評価できる。
経費削減		施設利用の増加に伴い、消費電力は増加しているが、電力会社の変更や空調設定温度の適正化、照明の小まめな消灯など、施設サービスの水準を維持しながら経費削減している点は高く評価できる。
施設の維持・管理		令和元年度の来場者はコロナウイルスの影響で前年から減少したものの、70万人に近い来場者があり、貸館業務や観光案内など非常に煩雑（はんざつ）な対応を迫られるにも関わらず、大きな事故もなく、円滑に管理運営いただいたことを高く評価したい。引き続き、行政とのよりよいパートナーシップのもと、スタッフの熱意と創意工夫により、舞鶴観光の拠点を担う指定管理者としてさらなるサービス向上に努められたい。

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

6 選定委員会による評価

評価点	4.33点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	舞鶴に来られた方に自信をもって紹介できる場所になった。 赤れんがパークが順調な発展をしている。 舞鶴にとって必要な施設である。 利益が毎年上がっており、指定管理料を減額することが可能と思われる。 まだまだ集客が可能であると思う。 レストランの充実が必要ではないか。	

《参考》 過年度の評価点

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平均
4.14	4.66	4.66	4	4.36